



〈三筋の川の川〉1961年 © Gruener Janura AG, Glarus/ Switzerland © 2006 Hundertwasser Archive, Vienna

人と自然：ある芸術家の理想と挑戦 フンデルトヴァッサー展

Reminders of an Ideal: The Vision and Practices of HUNDERTWASSER



2007年

4月12日(木)ー5月27日(日) 下関市立美術館

休館日=月曜日(ただし4月30日は開館) 開館時間=9:30-17:00(入館は16:30までに)

主催=下関市立美術館/NHKちゅうごくソフトプラン 後援=オーストリア大使館/NHK山口放送局

特別協力=クンストハウスウィーン/フンデルトヴァッサー・アーカイブ 協力=日本航空 企画協力=アプトインターナショナル

観覧料=一般900(720)円/大学生700(560)円 ()内は20名以上の団体料金

70歳以上、18歳以下の方および高等学校、中等教育学校と、盲・聾・養護学校に在学の生徒は無料

人と自然の共生のために

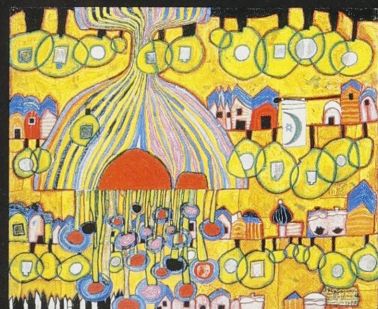
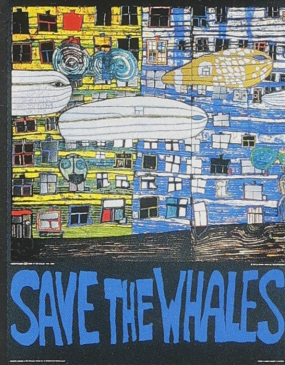
人と自然：ある芸術家の理想と挑戦 フンデルトヴァッサー展

Remainders of an Ideal:
The Vision and Practices of
HUNDERTWASSER

鮮烈な色彩と渦巻く線を駆使する画家として、また人と自然との共存を訴え続けたエコロジストとして日本にもなじみの深い、オーストリアを代表する美術家フリーデンスライヒ・フンデルトヴァッサー(1928-2000)の業績を回顧する展覧会を開催します。

フンデルトヴァッサーは、アンフォルメル運動など第二次大戦後の美術が華やかに展開し始めた1950年代中頃から、視るものを幻惑する強烈な色彩と「生と死を象徴する」渦巻く流線を用い、画面の中で樹木も建物も人間も、すべてが同化し渾然一体になる絵画世界を創造して大きな注目を集めました。

彼の芸術の根底にあったのはヨーロッパ近代の合理主義に対する強烈な批判であり、また自然回帰の願望であったと言えます。彼は早くも1958年にオーストリアとドイツ各地で「カピ草宣言・建築」に於ける合理主義に対してと題する講演を行い、また1968年にウィーンでの「アドルフ・ロースからの脱出」の講演によって現代の不毛な建築学からの決別を宣言しました。その後も彼は絵画制作と平行して、合理主義が生み出してきた現代社会の環境破壊の危機を訴え続けました。いま振り返れば彼のこうした活動は、1968年前後から世界各地で先鋭的な建築家やデザイナーたちが提起した近代建築や近代デザインに対する異議申し立てと共鳴関係にあり、1980年代のポストモダン論議の核となった理念を先取りした、きわめて実践的な直接行動であったと理解することができます。本展は彼の制作活動を包括的に回顧すると同時に、彼が生涯を通じて取り組んだ環境保護活動の側面と、人と自然との理想的な関係構築を目指した「建築」に焦点を当てます。彼が理想とした人と自然との共生と調和を雄弁に語る大型の建築模型、絵画、環境保護活動の過程で制作されたポスター、版画、タペストリーなど約100点の作品により、美術を通して自分の理想を実現しようと挑戦を続けてきた、美術家であり思想家であり実践家であったフンデルトヴァッサーを、いま再び考えてみることの意義は少なくありません。



- ①「水面に反射する家とボート」1949年
- ②「鯨を救え」(ポスター) 1982年
- ③「鯉魚」(オブジェ) 1989年
- ④「都会人」1993年
- ⑤「吐き出す家」1976年
- ⑥「陽：木の魂一陰：人間の家」1987年
- ⑦「青い涙」1997年
- ⑧「ホーエ・ハインドレスデン」(建築模型) 1998年
- ⑨「ギンシアの果て」(タペストリー) 1980年
- ⑩ポर्टレイト「直線は唯一創造的でない線だ。それは模倣の線である」1985年

© Gruener Janura AG, Glarus/ Switzerland
© 2006 Hundertwasser Archive, Vienna

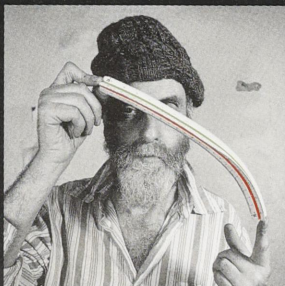
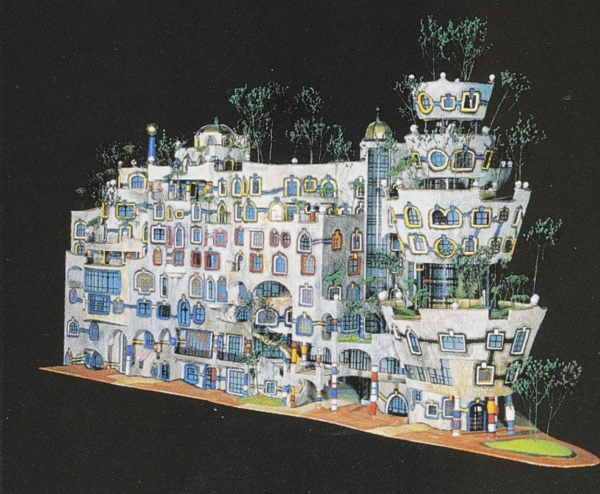


Photo by Gerhard Krömer, 1985

アクセス ACCESS

- 山陽新幹線
新下関駅から長府経由下関駅行きバスで約20分(美術館前下車)、
タクシーの場合約15分
- 山陽本線
下関駅から長府・小月・宇部方面行きバスで約20分(美術館前下車)、
タクシーの場合約15分
- 山陽本線
長府駅から下関駅行きバスで約10分(美術館前下車)
- 中国自動車道
下関インターチェンジから国道9号線経由約5キロ

下関市立美術館

〒752-0986 下関市長府黒門町1-1 Tel.0832-45-4131
URL: <http://www.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/bijutsu/index.html>



「ギャラリートーク」

学会員による作品解説
毎週土曜日(5月5日をのぞく) 午前11時から約30分間
展覧会場内(入場には観覧券が必要)

「次回展覧会予告」

瀧澤久仁子コレクション

太陽と精霊の布

藍と暮らす人々 トン族・ミャオ族・タイ族
～中国・東南アジア少数民族の染織～

6月2日(土)ー7月22日(日)